

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
こども発達学特別研究Ⅰ	加藤 裕明	2
こども発達学特別研究Ⅲ	加藤 裕明	7
こども発達支援・臨床相談特論	山本 愛子	12
教育内容・教材特論	山口 宗兼	17
教育方法実践特論	小田 進一	22
特別支援教育コーディネーター特論	村田 敏彰	27
特別支援教育方法特論	白幡 知尋	32
保護者支援特論	植木 克美	37
こども発達特別演習	小椋 佐奈衣	42
気になる子どもの発達支援特別演習	木谷 岐子	47
教育課程・方法特別演習	加藤 裕明	52
教育内容・教材特別演習	山口 宗兼	57
教育方法実践特別演習	小田 進一	62
発達障害実践特別演習	白幡 知尋	67

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		研究指導 研究指導					
科目名		こども発達学特別研究Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	加藤 裕明、白幡 知尋、山口 宗兼、山本 愛子、小田 進一、木谷 岐子、小椋 佐奈衣、村越 含博、村田 敏彰						
授業の位置づけ							
「こども発達学特別研究Ⅰ」は、複数の教授による共同講義「こども発達支援総論」の設定、高度な学問的成果と実践を往還しながら創意ある実践を展開するための「発達支援分析評価法実践演習」、実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をふまえて展開される科目であり、また、「こども発達学特別研究Ⅱ」、「同Ⅲ」に接続し、修士論文の完成に向かうための科目として位置づけられる。							
授業の概要							
「こども発達学特別研究Ⅰ」は、「こども発達学実践演習」の実践的学習のなかで生まれてきた各自の研究テーマをより明確化することが、学習活動の中心である。具体的には、各自の研究テーマにもとづき、問題関心、研究の目的、研究の方法等に関する検討を、主指導教員のもとで行う。それらをもとに、先行研究を収集し、各自の研究テーマの独自性を明らかにする。							
到達目標							
各自の問題関心を明確にし、研究の目的、研究の方法を設定し、研究計画書を作成できる。							
授業の方法							
実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、これまでの授業と併せて、実践演習のためのフィールドでの経験をさらに発展させ、修士論文として発展させる手がかり得るために、情報を共有し、対話し、各自の研究課題を深めていくアクティブ・ラーニングの場を提供する。							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを活用し、遠隔による探究の場を効果的に取り入れる。また、各自の研究計画やレポートを院生間で共有し、発表や対話の資料を作成し、アクティブ・ラーニングをすすめる。							
実務経験のある教員の教育内容							

教員は、保育園、こども園、幼稚園、そして小学校等での豊かな実務経験を持つ。その経験を活かし、院生が設定した研究テーマへの取り組みを支援する。

課題に対するフィードバックの方法

授業は、院生各自の研究計画書執筆過程に関する指導教員からのフィードバックを毎回行い、参加者同士の対話を軸に、修士論文執筆に向かう道筋を明らかにしていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	院生各自のこれまでの研究成果の共有① 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	(準備学習)各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	(事後学習)お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第2回	院生各自のこれまでの研究成果の共有② 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	(準備学習)各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	(事後学習)お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第3回	院生各自のこれまでの研究成果の共有③ 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	(準備学習)各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	(事後学習)お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	院生各自のこれまでの研究成果の共有④ 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	(準備学習)各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	(事後学習)お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			

第5回	指導教員の研究に学ぶ① 主指導教員の研究に関する「問題関心」を聞き、自分の問題関心との関連性について探る。	(準備学習) 事前に配布された指導教員の研究資料に目を通しておく。(20分)	(事後学習) 授業を通して得られた教育情報を授業の振り返りシートに記入し、保存しておく。(25分)
担当教員			
第6回	指導教員の研究に学ぶ② 副指導教員の研究に関する「問題関心」を聞き、自分の問題関心との関連性について探る。	(準備学習) 事前に配布された指導教員の研究資料に目を通しておく。(20分)	(事後学習) 授業を通して得られた教育情報を授業の振り返りシートに記入し、保存しておく。
担当教員			
第7回	指導教員の研究に学ぶ③ 主・副指導教員の研究に関する「研究の目的」を聞き、自分の研究の目的との関連性について探る。	(準備学習) 事前に配布された指導教員の研究資料に目を通しておく。(20分)	(事後学習) 授業を通して得られた教育情報を授業の振り返りシートに記入し、保存しておく。(25分)
担当教員			
第8回	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究① 先行研究の紹介をし、それらの研究論文を素材として、研究の目的(問題の所在)等を検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	(準備学習) 各自が関心を持つ先行研究論文の選定及び論文紹介のための準備をする。(20分)	(事後学習) 授業を通して、各自が関心を持つ研究論文の課題を整理する。(25分)
担当教員			
第9回	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究② 先行研究の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、「研究の方法」等を検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	(準備学習) 各自が関心を持つ研究論文の選定及び論文紹介のための準備をする。(20分)	(事後学習) 授業を通して、各自が関心を持つ研究の方法等について整理する。(25分)
担当教員			
第10回	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究③ 先行研究の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、分析の方法について検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	(準備学習) 各自が関心を持つ研究論文の選定及び論文紹介のための準備をする。(20分)	(事後学習) 授業を通して、各自が関心を持つ研究論文の課題を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究④ 先行研究の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、論理の叙述と考察の方法について検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	(準備学習)各自が関心を持つ研究論文の選定及び論文紹介のための準備をする。(20分)	(事後学習)授業を通して、各自が関心を持つ研究論文の課題を整理する。(25分)
担当教員			
第12回	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究⑤ 先行研究の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、引用文献・参考文献の引用の仕方について検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	(準備学習)各自が関心を持つ研究論文の選定及び論文紹介のための準備をする。(20分)	(事後学習)授業を通して、各自が関心を持つ研究論文の課題を整理する。(25分)
担当教員			
第13回	研究計画書の発表： 第1週から第12週までの学習を参考にしながら、各自の研究計画書を発表する。	研究テーマ(仮題)、研究の方法、研究結果のまとめ方、関連文献、等を記載した研究計画書(案)を作成する。 (20分)	(事後学習)新しく得た情報を整理する。(25分)
担当教員			
第14回	研究計画書の修正： 各自の研究計画書に基づいた発表に関して、指導教員チームからのアドバイスを組み入れて検討した研究計画書(案)を作成し、再度、発表する準備をする。	(準備学習)第1回目の研究計画書の発表に関する指摘を検討し、第2回目に向けて修正をした研究計画書を作成する。(20分)	(事後学習)新しく得た情報を整理する。(25分)
担当教員			
第15回	各自の研究計画書に基づいた発表に対して、指導教員からのアドバイスを組み入れて検討した最終的な研究計画書を作成し、修士論文の作成に着手する。	(準備学習)第1回及び第2回の発表に関する助言をベースに指導教員と研究計画書の更なる精緻化の作業に入る。 (20分)	(事後学習)新しく得た情報を整理する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究計画書の作成を中心に評価する。	

その他	0	
教科書		
院生の皆さんの研究に資する先行研究を適宜お伝えします。		
参考文献		
院生の皆さんの研究に資する先行研究を適宜お伝えします。		
履修条件・留意事項等		
研究計画書の内容についてよく理解しておいてください。		
備考欄		
なし		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		研究指導 研究指導					
科目名		こども発達学特別研究Ⅲ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	加藤 裕明、白幡 知尋、山口 宗兼、山本 愛子、小田 進一、木谷 岐子、小椋 佐奈衣、村越 含博、村田 敏彰						
授業の位置づけ							
「こども発達学特別研究Ⅲ」は、複数の教師による共同講義「こども発達支援総論」、高度な学問的成果と実践を往還しながら創意ある実践を展開をするための「発達支援分析評価法実践演習」、実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「こども発達学特別研究Ⅰ・Ⅱ」をふまえ、本大学院教育の集大成として、修士論文を完成させるための科目として位置づけられる。							
授業の概要							
修士論文中間発表を通して明らかになった研究計画及び修士論文草稿の修正を行う。その上で、各自の論文草稿について、問題関心、研究の目的、研究の方法、先行研究の批判的検討、文献一覧が学術論文として正確かつ十分に記載されているかを検討し、修士論文の完成を目指す。							
到達目標							
執筆した修士論文の原稿を、『北海道文教大学論集』あるいは『研究紀要』に投稿することを到達目標とする。							
授業の方法							
実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の保育・教育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、これまでの授業と併せて、実践演習のためのフィールドでの経験をさらに発展させ、修士論文として発展させる手がかり得るために、対話し、情報を共有する形で学ぶアクティブ・ラーニングの場を提供する。							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。また、各自の論文草稿を、プラットフォーム上で共有し、対話と探究によるアクティブ・ラーニングにつなげていく。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者には、保育園、幼稚園、子育て教育地域支援センター、カウンセラー、特別支援学校教諭、高等学校教諭など保育・教育の現場における実務経験が豊富にあり、そこで培われた実践的な知見を大学院生の修士論文に活かすよう指導を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

授業は毎回、院生の修士論文草稿に対するフィードバックで構成される。そのフィードバックをもとに、対話的学びを実践し、修士論文の作成に向かっていく。すなわちフィードバックと論文修正との螺旋的な進行によって、修士論文の完成に向かう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	院生各自、修士論文中間発表会を終えて、各自の研究計画をさらに明確にするための方向性について議論する。	修士論文中間発表会で受けた指導内容を整理しておく。(20分)	修士論文第一次草稿の作成に向けて、必要な資料を収集し、読み込みをする。(25分)
担当教員			
第2回	修士論文第一次草稿の作成① 指導教員の助言をふまえ「研究の背景」を執筆する。	修士論文第一次草稿「研究の背景」執筆の準備をする。(20分)	授業での指導をふまえ、第一次草稿「研究の背景」の修正を行う。(25分)
担当教員			
第3回	修士論文第一次草稿の作成② 指導教員の助言をふまえ「問題関心」を執筆する。	修士論文第一次草稿「問題関心」執筆の準備をする。(20分)	授業での指導をふまえ、第一次草稿「問題関心」の修正を行う。(25分)
担当教員			
第4回	修士論文第一次草稿の作成③ 指導教員の助言をふまえ「研究の目的」を執筆する。	修士論文第一次草稿「研究の目的」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「研究の目的」の修正を行う(25分)
担当教員			

第5回	修士論文第一次草稿の作成④ 修正した「研究の目的」を発表し、対話する。	修士論文第一次草稿「研究の目的」修正を執筆する。(20分)	修士論文第一次草稿「研究の目的」の再修正を行う。(25分)
担当教員			
第6回	修士論文第一次草稿の作成⑤ 指導教員の助言をふまえ「研究の方法」を執筆する。	修士論文第一次草稿「研究の方法」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員			
第7回	修士論文第一次草稿の作成⑥ 指導教員の助言をふまえ「先行研究の整理」を執筆する。	修士論文第一次草稿「先行研究の整理」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「先行研究の整理」を修正する。(25分)
担当教員			
第8回	修士論文第一次草稿の作成⑦ 指導教員の助言をふまえ「実践の背景」を執筆する。	修士論文第一次草稿「実践の背景」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「実践の背景」を修正する。(25分)
担当教員			
第9回	修士論文第一次草稿の作成⑧ 指導教員の助言をふまえ「実践の過程」を執筆する。	修士論文第一次草稿「実践の過程」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「実践の過程」を修正する。(25分)
担当教員			
第10回	修士論文第一次草稿の作成⑨ 指導教員の助言をふまえ「実践の分析」を執筆する。	修士論文第一次草稿「実践の分析」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「実践の分析」を修正する。(25分)
担当教員			

第11回	修士論文第一次草稿の作成⑨ 指導教員の助言をふまえ修正した「実践の分析」を発表し、対話する。	修士論文第一次草稿「実践の分析」修正部分の執筆をする。(20分)	修士論文第一次草稿「実践の分析」を再修正する。(25分)
担当教員			
第12回	修士論文第一次草稿の作成⑩ 指導教員の助言をふまえ「考察と課題」を発表し、対話する。	修士論文第一次草稿「考察と課題」部分の執筆をする。(20分)	修士論文第一次草稿「考察と課題」を修正する。(25分)
担当教員			
第13回	修士論文第一次草稿の作成⑪ 指導教員の助言をふまえ、修正した「考察と課題」を発表し、対話する。	修士論文第一次草稿「考察と課題」部分の修正を執筆をする。(20分)	修士論文第一次草稿「考察と課題」を再修正する。(25分)
担当教員			
第14回	修士論文第一次草稿の作成⑫ 指導教員の助言をふまえ、「引用文献、参考文献一覧」をまとめる。	修士論文第一次草稿「引用文献、参考文献」を整理する。(20分)	修士論文第一次草稿「引用文献、参考文献」を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修士論文第一次草稿の作成⑬ 指導教員の助言をふまえ、修士論文第一次草稿を提出・発表し、対話する。	これまでの検討をベースに、修士論文第一次草稿の章・節構成全体を再度整理する。(20分)	修士論文第一次草稿全体の校正を修正し、第二次草稿に着手する(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文第一次草稿の提出(100%)	

その他	0	
教科書		
大学院生の研究テーマに応じて、適宜紹介します。		
参考文献		
大学院生の研究テーマに応じて、適宜紹介します。		
履修条件・留意事項等		
大学院生各自の研究テーマに応じて、よりレベルの高い修士論文を完成させるべく、取り組みへの意思を明確にしてください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		こども発達支援・臨床相談特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	山本 愛子						
授業の位置づけ							
インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となっています。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目(8科目)が配置されており、本科目はそのなかの一つです。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「教育・保育において、多様なニーズを有するこどものインクルーシブな教育・支援を展開できる」に関わる科目として位置付いています。							
授業の概要							
乳幼児期・児童期の子どもの発達支援の手掛かりとしての心理臨床について学習します。ここでは、特に、発達面に課題のある子どもたちのコミュニケーション力を育成するために本学で開発された「関係力育成プログラム」を中心に、遊戯療法及びカウンセリングの理論と実際を重点的に学ぶことを通して、子どもの発達を支えるための相談・支援のあり方について研究します。							
到達目標							
乳幼児期・児童期子どもたちへの支援・相談活動について、発達臨床心理学的な視点から学びを深め、それに基づいて、発達支援における課題解決・発展のための手立てを見出すことができるようになることを目標とします。							
授業の方法							
実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験を通した課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開します。							
ICT活用							
この授業では、クリッカー(反応収集提示装置)による子どもの行動分析を行います。ここでは、特に集団遊戯療法場面をクリッカーを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、遊戯療法の理論と実際に関する理解を深めます。							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者は、公認心理師・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。また、授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていきます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションおよび講義担当者の発達支援・心理臨床に関する学習の軌跡と臨床実践を紹介します。ここでは、講義の内容や目的、進め方、受講にあたっての留意事項等についての説明を行います。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第2回	発達支援・相談における対象者の特性(抱えている課題・関連する要因等)について、受講生それぞれが描くイメージ・意見の交換およびKJ法による分析体験を通して、対象の輪郭を明らかにします。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第3回	子どもの発達とカウンセリングに関わる理論(1)発達支援において、子どもの特性や家庭背景、心理的な課題・状況に関わるカウンセリングの基礎となる理論について学びます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第4回	子どもの発達とカウンセリングに関わる理論(2)カウンセリングに関わる理論を学び、子どもの特性や心理的な課題・状況に対する臨床心理学的なアプローチの技法について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第5回	発達支援と心理アセスメント(1) 子どものカウンセリングにおける心理アセスメントの意義とその方法について学びます。ここでは、特に、行動観察、生活記録の方法について学び、子どもの特性を捉えた支援のあり方について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第6回	発達支援と心理アセスメント(2) 発達支援における心理アセスメントの意義と方法について学びます。ここでは、投影法としての描画テスト、ロールシャッハテスト、文章完成法テストの位置づけについて学習します。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第7回	発達支援における遊戯療法の理論と実際(1) 心理療法における遊戯療法の位置づけと意味について理解を深めます。ここでは、これまでに学んできたカウンセリングに関わる理論と遊戯療法との関係性について学ぶことを通して、発達支援における遊戯療法の意味について考えていきます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第8回	発達支援における遊戯療法の理論と実際(2) 発達支援における「関係力育成プログラム」に関して映像資料を視聴しセラピストの構成と役割を中心に学びます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第9回	発達支援における遊戯療法の理論と実際(3) 発達支援における行動観察について学びます。ここでは、関係力育成プログラムによる集団遊戯療法場面に基づいて、子どもの行動観察の理論と実際について理解を深めます。また、クリッカーを活用した実際の分析体験を通して、実践的な学びを深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第10回	遊戯療法と音楽療法のかかわりを通して見る生涯発達支援(1):生涯発達支援における臨床の場を構築するための音楽療法について学習を深めます。ここでは、遊戯療法の世界と音楽療法の関係性について学びます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第11回	遊戯療法と音楽療法のかかわりを通して見る生涯発達支援(2):関係力の育成に関わる音楽療法について学習を深めます。また、音楽療法の実践に関する映像資料の視聴を通して、生涯発達支援における音楽療法の意義について学びを深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第12回	子どもの家族関係に関する支援の理論と実際(1):ここでは、子どもの家族関係に視点をあて、家族療法に関する文献の講読を通して、家族療法の理論の基本的な考え方について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第13回	子どもの家族関係に関する支援の理論と実際(2):家族療法における臨床心理学に基づいたアセスメントの体験・分析を通して、この療法の有用性について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第14回	実践事例を通した子どもの発達支援・臨床相談の理解:ここでは、これまでに講義を通して学んできたことを総合して、発達支援に関わる相談事例を想定し、対象の見立てから支援の内容まで、受講生自身が検討していきます。設定された子どもの相談事例について検討することを通して、課題解決・発展のための手立てを分析していきます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第15回	講義の振り返りと学習の成果の確認:ここでは、この講義で学んだことについて、全体のまとめ・意見交換を行います。	これまでの講義の振り返り、提示したテーマに基づいてレポートを作成する。(90分)	講義全体を振り返り、今後さらに学びを深めたいことについて整理すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業場面への参加態度、グループでの活動状況、課題提出により評価します。また、行動観察・分析に関するレポート課題の提出によって評価します。	

その他	0	特にありません。
教科書		
教科書の指定は行いません。必要な資料はその都度配布します。		
参考文献		
育児のなかでの臨床発達支援 藤崎真知代・大日向雅美編著 ミネルヴァ書房		
履修条件・留意事項等		
グループによる体験学習、テーマに関する分析・討論の取組が含まれます。そのため、積極的な参加態度が求められるので留意してください。		
備考欄		
2022年(令和4年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」「小学校教諭専修免許状」に関する教育課程の科目でもあり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目です。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		教育内容・教材特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
遊びを中心とする幼児期の学びと教科学習に重きを置く学童期の学びに一貫性を確保し、幼小の連続性と連携を構築することは、今日の重要な教育課題となっている。この課題に応えるために、本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別演習、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。							
授業の概要							
教育内容・教材論の今日における深化は、先行研究によれば、教育内容と教材の区別論に始まるとされる。本講義では、この論の批判的吟味を土台として、とくに幼児段階、小学校低学年段階における教育内容・教材のあり方を研究する。							
到達目標							
1.教育内容教材論の基本的な理解を形成する。2.幼児段階・小学校低学年段階の教育内容に関して蓄積されてきた重要教材の意義を把握する。3.今後、受講生自身の経験を通した課題意識をベースにして、教育内容教材について意欲的に改善・開発する基礎的力量と態度を養う。							
授業の方法							
配布印刷物(課題など)を用いて演習形式ですすめる。 今回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
特になし。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

今回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	わが国における教育内容・教材論の研究において、柴田義松が提起した教育内容と教材の区別論の意義を批判的に検討し、教育内容・教材の開発にむけて、いかなるアプローチがあるかについて、受講生全員で討論を通して研究を深める。	シラバスを十分に確認しておくこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第2回	小学校学習指導要領および幼稚園教育要領(保育所保育指針)の歴史的変遷を概括し、わが国の学校における教育内容、教科や領域の構成の特徴と問題点を解明する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第3回	特に、ブルーナーが提唱したとして知られている教育内容現代化は、功罪相半ばする評価を受けているが、教育内容教材論においては画期的なものであり、彼の開発したいいくつかの教材の意義も含めて、その積極面と消極面について受講生間の討論を通して研究する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第4回	これとは対照的に、日本における数学教育の現代化を打ち出していた遠山啓は、ブルーナーのそれを超現代化として批判しつつ、現代数学と認知発達心理学に学び、視覚的、操作的な「結集」可能性をもつタイルを考案した。ここに見られる「数(教育内容)」-「タイル(教材)」の関係は、教育内容教材のすぐれた典型であり、この開発プロセスと理論を深く探求し、今後の指針とする。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			

第5回	前講の議論をふまえ、とくに、幼児教育における各領域と生活科をふくむ小学校低学年教科の関連を検討し、次回以降の研究の端緒とする。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第6回	第2講、第5講の議論をふまえ、小学校の各教科の教育上の連関について検討する。例として、算数と理科に関連する「量」を取り上げ、教育内容、教材論においては、既成の枠にとらわれない発想が求められることを理解し、課題意識を高める。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第7回	ここから、個別教科領域の研究に入る。国語においては、言語と言語活動をいかに関連づけるかが基本的な課題となっているが、解決されているとは言い難い。これについて、すぐれた事例を紹介しながら適切な教材を探索する作業を課す。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第8回	前講に引き続き、院生が探索した教材について検討し、その適切性について受講生全員による討議を通して、今後の課題とする。なお、幼児期における規範性の高い言語教材である絵本と言語の発達の関係についても、同様の視点から課題を把握する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第9回	数量の認識については、既に例示したタイルにくわえ、長さ、液量を素材として、量の計測にいたる4段階指導などの成果を紹介しつつ、いくつかの教科書・教材について、批判的に吟味し、対案を立てる作業を課す。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第10回	前講に引き続き形で、院生の対案を院生同士で吟味し、より適切なものとなりうるよう支援し、完成させる。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			

第11回	幼小の連続を考案する素材として、数量の認識形成の問題をとりあげる。ピアジェの研究を土台とし、これに現代数学の視点を重ねて遠山啓が提案した「未測量」「原数学」などの考えに学び、提示する教材と活動の組織のあり方について検討する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第12回	前講に引き続き、家庭生活の中で獲得する数唱についてとりあげ、これらが基数及び序数の認識にいかにつながる(つなげる)のか検討する。あわせて、日本の数唱に特有の和語と漢語の混用、助数詞の汎用など、数認識に関わる問題について研究する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第13回	領域「環境」「人間関係」と低学年理科・社会を包含する面をもつ生活科との関連について、あらためて具体的に検討する。その際、教科の目標と論理相反しかねない生活科教科書を取り上げ、記述内容を素材として、この領域、教科における教育内容・教材論への示唆をさぐる。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第14回	道徳が教科として、新たに設定される動きをふまえ、道徳的発達に関する理論を学び、とくに規範(ルール)と社会関係に焦点をあてて、どのような教材と活動の組織が適切かについて、受講生自身の経験を通した課題意識を通してながら検討を試みる。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員			
第15回	これまでの研究をふまえ、自ら検討・開発しようとした試みを土台に、教育内容・教材論、とくに教材が満たすべき要件についての議論を深める。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	レポート作成に向けて、すべての返却された課題や資料などに必ず目を通し、復習を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題レポート(70%)及び討論内容(30%)	

その他	0	なし。
教科書		
講義資料はその都度、レジュメを事前に配布する。		
参考文献		
柴田義松『教育課程論』(第二版)学文社		
履修条件・留意事項等		
教育内容・教材特別演習も履修すること。		
備考欄		
2022(令和4年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」、「小学校教諭専修免許状」に関する教職課程の科目でもあり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目である。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		教育方法実践特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	小田 進一						
授業の位置づけ 本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別研究、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。							
授業の概要 教育実践は教育目標を子ども・家庭・地域社会の実態を考慮して具体化した教育計画のもとで、しかもそのときどきに生起する諸事態に臨機応変に対応しつつ行われる。今日の実践論の土台の一つとなったのは技術的実践と反省的実践の区分と反省的実践を推奨する先行研究であった。このような先行研究の批判的な検証を機軸として本講義を展開する。内容上、教育とケアの統合、方法原理としての「遊び」、今日の課題である幼小の連携、家庭・地域社会との連携等についての先行事例、先行研究を吟味し、あわせて受講生自身の経験を通じた課題についても討論を通して明らかにし、主体的学習を通して教育実践に向けての理論的基礎を構築する。							
到達目標 1. 幼児教育実践の意義と方法を理解する。 2. 幼児教育実践の全体像を理解し、個々の実践を位置づけることができる。 3. 幼児教育実践にむけて、理論に裏付けられた確信をもとに、意欲的に臨むことができる。							
授業の方法 テーマに基いて各自の取りまとめと討論を中心に進める。							
ICT活用 なし							
実務経験のある教員の教育内容							

本学附属幼稚園の園長としての豊かな実務経験と現在の認定こども園運営の現状認識を活かし、保育・幼児教育現場における実践的な思考を伝えていく。

課題に対するフィードバックの方法

課題意識、新たな課題はその都度、授業中に取り上げる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	幼児期の教育に係る実践と制度に係る課題等、授業の展開を紹介し、授業の目標、評価、進め方、受講に係る留意事項を説明する。 特に、本講義では、大学院生それぞれが経験を通した課題をの場を提供することを説明する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第2回	教育実践が、単に「環境の整備と適応」にとどまるものではなく、綿密な計画にもとづく実践であること、そのことを通して子ども一人ひとりの発達の実現を目指すものであることを、先行諸説の検討を踏まえ明らかにする。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第3回	教育実践が計画的な実践でありながら、その時々を生起する事態にいかに対応すべきかについて、技術的実践、反省的実践などの用語で語られる先行研究の批判的検討をもとに研究する。 実践が、臨機応変な柔軟なものであるべきことを、これまでの教育方法理論の蓄積をふまえて考察する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第4回	フレーベル、モンテッソーリなどの先達の理論と実践について今日の実践に生かすべき基本原理を、これら进行评估する諸説に学びながら確認する。 実践における計画の基礎となる学習指導要領、幼稚園教育要領(保育所保育指針)の今日に至るまでの変遷を概観し、これらに反映している時代の要請と理論的背景を考察する。 その際デューイ・ブルーナー、ヴィゴツキーらの諸説にも触れる。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		

第5回	さらに、幼児教育実践の基本課題である「教育とケア」の統合について、幼保一元化論を含めた諸説に学び、認定こども園などの可能性を含め、実践の指針を明確にする。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第6回	幼小教育課程の一貫性が求められる今日において、教育方法、教育実践の上においても、幼小の連続性が問われている。 この課題についても、先行する諸説、諸例に学びつつ研究を深める。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第7回	幼児教育・保育施設と家庭の緊密な連携が求められている。これがいかにあるべきかについて、事例(例えば北海道文教大学附属幼稚園の実践)を研究し、課題を探る。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第8回	幼児教育・保育施設と地域社会の連携が問われている。これについても、事例(例えば、恵庭市のこども課の実践事例など)を研究し、課題を探る。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第9回	遊びを中心とする幼児教育実践においては、基本的には計画的な環境構成が重要である。この環境構成の様々な事例とそのもとでの支援のあり方について研究する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第10回	幼児教育方法における「遊び」について、その特質にもとづく分類とそれぞれの機能について、先行研究をふまえ研究を深める。 (例えば、身体運動遊び、創造的工作遊び、役割遊び(ごっこ遊び)、知的遊び、劇遊びなど)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		

第11回	幼児教育における伝統的な「仕事」(いわゆる「真剣な遊び」)の今日的意義を再検討し、先行研究に学び、教育実践に生かす方途を研究する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第12回	役割遊びや知的遊び、劇遊びなどを行事等に結びつけるなどの実践のあり方について、受講生全員で討議を重ね研究を深める。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第13回	遊びによらない教育実践も必要であり、これについても、とりたて指導や行事指導のあり方を中心に、受講生全員で情報を交換し、研究を深める。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第14回	札幌市の全区がそれぞれに行っている幼保小連携協議会の各区の実践の事例を受講生が、各自持ち寄り、それらの実践事例を通して、新しい実践方法の研究に取り組む。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第15回	まとめてとして、「幼児教育」「保育」実践が家庭教育を含む幼児期の教育の実践に広がりを持つために視点の確認と視野をさらに広げる必要性について討論し、考察する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員	小田 進一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	先行研究等の読み込み及び課題のまとめの内容により評価する。	

その他	0	
教科書		
特に定めない		
参考文献		
都度指定する		
履修条件・留意事項等		
常に課題意識を高く維持することを求める。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		特別支援教育コーディネーター特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	村田 敏彰						
授業の位置づけ							
インクルーシブ教育システムに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズをもつ子どもへの対応が求められており、この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置している。保護者支援特論、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援 教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の8科目が設定され、本講義特別支援教育コーディネーター特論があり、中堅の指導者にとって重要な内容になっている。							
授業の概要							
教育・保育職における特別支援教育は、子どもの権利及び学習・発達を保障していく観点から不可欠なものになっている。本講義では、従来の「特殊教育」から「特別支援教育」への広がりの中で、特別支援教育の一人ひとりの発達に即した支援のあり方が、全ての教育の基底として重要なことを学習し、コーディネーターとしての力量形成の手がかりを研究する。							
到達目標							
1. 特別支援教育コーディネーターに求められる資質能力や専門性について理解することができる。 2. 特別支援教育コーディネーターの役割について、理解することができる。 3. 様々な実践事例を通して、特別支援教育コーディネーターとしての力量を高めることができる。							
授業の方法							
授業は演習方式で実施し、受講者全員で授業を作り上げる参加型の方式を採用する。そこでは、各自のこれまでの経験を全体で共有できるような場を設定する。また、必要に応じて文部科学省通知や先行研究を素材にして理解を深めることが出来るような機会を提供する。							
ICT活用							
パワーポイントを使用して、プレゼンテーションを印象的に提示する。また、グーグルフォームやジャムボードを効果的に活用し、受講生相互の意見交流を図る。							
実務経験のある教員の教育内容							

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームの課題提出やグーグルフォームの振り返りシートを活用し、質問に答えたり、アドバイス等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 受講生の現状や実践について情報交換し、コーディネーターに求められる役割について各自の意見を述べ合い、特別支援教育コーディネーターの役割についての輪郭を把握する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第2回	特別支援教育の校内支援体制と特別支援教育コーディネーターの位置づけ 各自、重要と思われる資料や自身の実践資料を持ち寄り、それらの資料をベースにして全体で討論をし、その専門性について共通理解を図る。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第3回	特別支援教育コーディネーターの役割 文部科学省や各学校・園の分掌や経営計画から、特別支援教育コーディネーターの役割について学習する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第4回	特別支援教育コーディネーターに求められる資質能力 文部科学省通知や先行研究より、特別支援教育コーディネーターに求められる資質や能力について理解し、受講生の実践や現場の現状を踏まえながら討議する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第5回	個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成 校内支援体制の推進に向けた、実効性のある指導計画の 在り方や作成のポイントについて理解する。	シラバスに目を通して授業テー マに関する文献および専門用 語について読み込みをしておく 。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと 留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第6回	子どもの実態把握に活かす心理アセスメントの活用① WISC－ⅣならびにWISC－Ⅴの理論的背景について理解 し、具体的な実施方法について学習する。	シラバスに目を通して授業テー マに関する文献および専門用 語について読み込みをしておく 。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと 留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第7回	子どもの実態把握に活かす心理アセスメントの活用② WISC－ⅣならびにWISC－Ⅴの結果分析について理解し 、個別の教育支援計画・指導計画作成や日常の具体的支 援について学習する。	シラバスに目を通して授業テー マに関する文献および専門用 語について読み込みをしておく 。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと 留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第8回	子どもの実態把握に活かす心理アセスメントの活用③ KABC－Ⅱの理論的背景について理解し、具体的な実施方 法について学習する。	シラバスに目を通して授業テー マに関する文献および専門用 語について読み込みをしておく 。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと 留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第9回	子どもの実態把握に活かす心理アセスメントの活用④ KABC－Ⅱの結果分析について理解し、個別の教育支援計 画・指導計画作成や日常の具体的支援について学習する 。	シラバスに目を通して授業テー マに関する文献および専門用 語について読み込みをしておく 。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと 留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第10回	校内支援委員会の運営と特別支援教育コーディネーター の関わり 実効性のある校内支援委員会の運営のためのポイントに ついて、受講生の現場の現状を交流しながら学習する。	シラバスに目を通して授業テー マに関する文献および専門用 語について読み込みをしておく 。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと 留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第11回	特別支援教育コーディネーターの連絡調整について① 教育相談をもとにした、保護者との連携について、事例をもとに検討する	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第12回	特別支援教育コーディネーターの連絡調整について② 学級担任からの相談に基づく担任との連携について、事例をもとに検討する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第13回	特別支援教育コーディネーターの連絡調整について③ 学級担任と保護者の円滑な連携に向けたコーディネーターの関わりについて、事例をもとに検討する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第14回	特別支援教育コーディネーターの連絡調整について④ 関係機関との円滑な連携に向けたコーディネーターの関わりについて、事例をもとに検討する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第15回	最終課題を提示するので、課題についての疑問点を質問したり自分の理解を確認する。特別支援教育についての深い考察が求められる。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	講義全体を振り返り、今後さらに学びを深めたいことについて整理すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の授業における発表資料及び指定文献をベースにしたレポートを総合的に判断し、評価する。	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
デキる「特別支援教育コーディネーター」になるための30レッスン&ワークショップ事例集 小野寺 基史, 青山 真二, 五十嵐 靖夫 明治図書		
履修条件・留意事項等		
各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		特別支援教育方法特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	白幡 知尋、未定						
授業の位置づけ							
インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきた。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目群を配置している。特別支援教育方法特論はこれらの講義の中核を占める課目として位置づけられている。なお、これらの科目群は、心理臨床の分野を目指す院生の学習を下支えする科目群として重視されている。							
授業の概要							
特別支援教育の全体像を明らかにするために、「障害とはなにかという」という問いを通して、①子どもたちのもつ行動の特徴(発達要求の弱さ：X)、②子どもを取り巻く環境の側の応答の不十分さ(Y)、③子どもの中に累積される歪み(Z)、のそれぞれの問題を発達論的かつ関係論的に捉えていく中で、障害という問題を構成している諸要因について理解を深める。それらの基礎的理解に立って、このXの要因とYの要因とZの要因が掛け算的に組み合っ、て、「障害という問題」を構成していることを学習する。その学習の中で、特別支援教育の基本的な枠組みについて理解を深める。							
到達目標							
① 障害という問題を構成している要因のそれぞれについての学習を通して、障害のある子どもたち抱える問題の全体像を説明できる。 ② 特殊教育からの移行の経過を踏まえて特別支援教育を説明できる。 ③ 特別支援教育における環境設定、教師のかかわりについて討議できる。 ④ クリッカーによる行動分析の結果をわかりやすく説明できる。							
授業の方法							
この科目では、ビデオ資料による発達面に課題を持つ幼児児童の行動観察及びクリッカーを活用して、授業分析、保育実践場面や発達支援活動の振り返りのために収集されたビデオ映像等から可視化グラフを作成し、グラフの特徴と対応するビデオ映像を再生して、お互いの行動分析の特徴を提示し合いながら共同でディスカッションを可能にする、クリッカー「反応収集分析装置(PF-NOTE)」を導入した授業を展開する。パワーポイントと配布物を用いて方法を説明した後に、ディスカッション、PF-NOTEを用いた実習を行う。							
ICT活用							
PF-NOTEのクリッカー機能を用いた実習を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼児のこたばの教室指導員として幼児の指導を担当した実務経験、そして精神発達相談員として、1歳半健診、3歳健診において、発達面の遅れの疑いのある幼児と保護者を対象に、心理相談を行った実務経験、さらに障害児保育事業における巡回指導専門員として保育所に在園している障害をもつ幼児の保育園の職員を対象に相談助言の実務経験等活かして、特別支援教育方法特論について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	発達と発達障害について学習を深め、子ども発達の理解が特別支援教育の学習を深めるために重要であることを理解する。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	WHOの「障害」「能力」概念をめぐるパラダイムシフトについて理解し、発達と環境の関係について理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	人間の発達と生態学的環境(生態学的環境モデル、Bronfenbrenner,U.)について学び、特別支援教育を多次元、多層的に理解する。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	子どもの発達について、不登校と発達障害、学習と発達障害の視点から理解を深める。合わせて、発達障害の特性を環境との関係から理解することが重要であることを学ぶ。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	特別支援における基礎的環境整備、合理的配慮について、我が国の政策動向を踏まえて学ぶ。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	クリックによる行動分析のオリエンテーションとして、行動観察の歴史を学び、行動観察について理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	行動評定の実習を行うにあたって、行動評定の概要、観察者の知覚的・認知的バイアスについて理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	PF-NOTEを活用して、クリックによる行動評定を行い、各自が自分の行動評定の結果について発表する。そして、結果について協議することで、互いがもつ認知的枠組みについて理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	特別支援教育において活用される教材としての絵本について、発達のドーナッツ(佐伯)を用いて学び、発達に特別な支援を要する幼児指導の学びについて理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	発達に支援を要する幼児児童生徒の学びを状況論の観点から理解するために、幼児期から青年期に渡る発達の過程をビデオ教材により学び、受講生同士のディスカッションを通して理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	「関係力育成プログラム」を活用した指導の実際についての視聴覚資料を視聴し、討論を通してこのプログラムの特徴について自分の考えを深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	「関係力育成プログラム」によるロールプレイ体験をし、この指導法の持つ意味について考える。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第13回	「関係力育成プログラム」によるロールプレイをビデオで撮影し、ロールプレイ後にPF-NOTEを活用して、クリッカーで分析を行い、レポートを作成する。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	各自持ち寄った「関係力育成プログラム」によるロールプレイ体験の振り返りのレポートを素材にして、討論を実施し、お互いの情報を共有する。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	クリッカーの結果と振り返りのレポートから、特別支援教育における幼児児童の学びを深める教材、教室環境、教師のかかわりについて理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	最後に授業内容をふりかえるレポートの提出を受講生に求める。	

その他	50	各回におけるディスカッションへの参加度、発言内容(内容の具体性、妥当性、論理性)を評価対象とする。
教科書		
講義プリントを配布する。		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		保護者支援特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	植木 克美						
授業の位置づけ							
インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきた。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置している。具体的には、保護者支援特論、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援 教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の8科目が設定されている。							
授業の概要							
子育て支援、家庭支援について教育者・保育者が担い得る役割、教育・保育の専門性について学び、それらを教育・保育実践と研究において活用する力を養う。 保護者との関係づくりによる個別支援、困難かつ複雑な課題に対する多職種（機関）連携、など、様々な子どもに対する家庭支援について教育者・保育者が担い得る役割、現代的課題について教育・保育の専門性を高める視点から学ぶ。特に、発達面に課題がある子どもの保護者が抱える課題について、学校・保育現場はどのように関わってきたか、先達の知見を概観しながら、保護者支援のあり方について理解を深める。							
到達目標							
1. 学校・保育現場の保護者支援における実践事例について理解を深め、それに対する自分の考えを表明できるようになる。 2. 学校・保育現場の保護者支援における学校教師・保育士の専門性について、先達の実践事例から学び、理論と結びつけながら論考することができるようになる。 3. 学校教師・保育士の教職生活全般通じた学校内・園内における役割の変化、専門性の深まりについて理解し、それに応じた保護者支援を構想できるようになる。							
授業の方法							
実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開する。そのために、以下の方法をとる。パワーポイントと配布印刷物を活用しながら講義形式で進めた後、ディスカッションを毎回実施する。							
ICT活用							
授業内容と関連する保護者支援に関するHPの情報を提供し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼児のこたばの教室指導員として幼児の教育相談を担当した実務経験、そして精神発育相談員として、1歳半健診、3歳健診において、発達面の遅れの疑いのある幼児と保護者を対象に、心理相談を行った実務経験、さらに障害児保育事業における巡回指導専門員として保育所に在園している障害をもつ幼児の保護者および保育園の職員を対象に相談助言の実務経験等活かして保護者支援について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	学校・保育現場における保護者支援の現状と背景 保護者支援の困難性、特に学校教師の抱える困難性を理解し、その背景にある保護者の変化、保護者と学校・園の関係性の変化等の背景にある子育てを巡る現代的課題について検討する。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	学校・保育現場の保護者支援における専門性(1) 学校教師、保育士の行う保護者支援の専門性について、コンプライアンス、インフォームド・コンセント等の概念を踏まえながら、「子どもの最善の利益という」観点から検討していく。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	学校・保育現場の保護者支援における専門性(2) 学校教師、保育士の行う保護者支援の専門性について、保護者を子どもの発達援助を共に担うパートナーとして尊重し、合意形成を図っていくための理論的背景を踏まえながら、理解を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	保育場面における保護者支援の実際と課題(1)～「気になる子ども」の保護者支援 保育場面における、「気になる子ども」の保護者との関係の中で現れる保育士の困難性について、学術論文を購読し論考を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	保育場面における保護者支援の実際と課題②～発達面に課題のある子どもの保護者支援① 保育場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、精神疾患が疑われる保護者との関係の中で現れる保育士の困難性とその専門性の深まりについて、保育士に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	保育場面における保護者支援の実際と課題②～発達面に課題のある子どもの保護者支援② 保育場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、かかわりが難しい保護者との関係の中で現れる保育士の困難性とその専門性の深まりについて、保育士に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	学校場面における保護者支援の実際と課題①～若手教師の保護者支援 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる若手学校教師の困難性とその専門性の深まりについて、学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	学校場面における保護者支援の実際と課題②～中堅教師の保護者支援 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる中堅の学校教師の困難性とその専門性の深まりについて、学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	学校場面における保護者支援の実際と課題③～熟年教師の保護者支援① 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる熟年の学校教師(特別支援学級担任)の困難性とその専門性の深まりについて、学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	学校場面における保護者支援の実際と課題③～熟年教師の保護者支援② 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる熟年の学校教師(通常学級担任、管理職)の困難性とその専門性の深まりについて学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	学校場面における保護者支援の実際と課題(4)～若手教師の保護者支援を同僚として支える 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者支援において、困難を呈する若手教師を同僚教師として支えるという実践事例について、熟年の学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	学校場面における保護者支援の実際と課題(5)～養護教諭による保健室登校児童の保護者支援 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、保健室登校をする児童の保護者の支援を行う養護教諭の役割を学級担任、管理職等の学校内の連携・協働の観点から、養護教諭に対する聞き取り調査の結果を踏まえて、検討を深める。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第13回	学校場面における保護者支援の実際と課題(6)～特別支援教育コーディネータによる保護者支援 学校場面における、保護者の相談窓口としての役割を担う特別支援教育コーディネータが行う、学校内外の他職種、他機関連携による、発達面に課題のある子どもの保護者支援について、実践事例から検討を深める。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	学校場面における保護者支援の実際と課題(7)～特別支援学級担任の保護者支援 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者支援において、特別支援学級担任が放課後等デイサービスの職員と連携して行う保護者支援について、実践事例から検討を深める。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	授業全体のふりかえり これまでの授業内容を踏まえ、教育・保育の質を高める観点から保護者支援のあり方についてディスカッションを行う。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	最後に授業内容をふりかえるレポートの提出を受講生に求める。	

その他	50	各回におけるディスカッションへの参加度、発言内容(内容の具体性、妥当性、論理性)を評価対象とする。
教科書		
小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省) 合わせて、講義担当者作成のペーパー資料を配布する。		
参考文献		
シリーズ臨床発達心理学・理論と実践③「保育のなかでの臨床発達支援」秦野悦子・山崎晃編著 ミネルヴァ書房 2011年 教育現場の「コンピテンシー評価」、「見えない能力」の評価を考える 渡部信一編著 ナカニシヤ出版 2017年		
履修条件・留意事項等		
各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。		
備考欄		
2022年(令和4年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」、「小学校教諭専修免許状」に関する教育課程の科目でもあり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目である。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		こども発達特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	小椋 佐奈衣						
授業の位置づけ							
「こども発達特別演習」は、発達心理学と教育心理学の心理学分野に加え、人間の精神を考究するための学問であり、こども発達支援教育関連演習の科目である。また、「こども発達特論」の講義内容と関連して、教育の基礎的理解に関する科目でもある。							
授業の概要							
①発達の知見に関してピアジェとヴィゴツキーの二大発達理論を基に認知発達とワロンの発達論 を基に自己意識を中心に学ぶ。 ②精神発達を発達心理学と教育心理学の関連分野から考察する。 ③こどもの発達理論に関する研究や主要論文など取り上げ、そのテーマを演習形式で議論する。							
到達目標							
①人間の精神発達に関する発達理論の知見の学びを、学生が得られるようになること。 ②「こども発達特論」の講義内容と関連付けして年齢別に発達段階の探求を、学生ができるようになること。							
授業の方法							
教科書、プリントを使用した講義形式ならびにディスカッション形式で行う。必要に応じてDVDなどの映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。授業内の小レポートで、学習内容の確認を行う。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

児童相談所で発達相談および支援業務、国立大学の研究機関で発達障害の研究に従事、短期大学の教員などこども発達学に関する実践的経験を有する。大学院ではこどもの発達研究を行い、博士の学位を取得した。以上の経験を活かし、学生が目指している発達支援や教育について、そのニーズに基づく研究活動としての調査、論文作成のための専門性と知識の伝授および指導をする。

課題に対するフィードバックの方法

小レポート、リアクションペーパーに記入された受講生の意見を共有、フィードバックする時間を設ける。課題に対しては、コメントを返します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「発達の定義」と生涯発達とは何か？発達に関する学説の研究を分析して考察する。	(準備学習)事前に配布されたシラバスに目を通しておく。(20分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第2回	「乳児期の環境と認知機能の発達」を理解すると同時に乳児を対象とした研究方法を学ぶ。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第3回	「愛着の形成」について愛着に関する理論を学び、愛着と発達の関連性を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第4回	「乳幼児の言語発達」について言語獲得のメカニズムと文法能力の発達段階を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第5回	「幼児の認知発達」を理解すると同時に認知発達に関する学説の研究を分析して考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第6回	「幼児期の遊びの発達」について、こどもの発達と遊びと仲間関係の関連性を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第7回	「こどもの自己意識の発達」について学び自己意識に関する学説の研究を分析して考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第8回	「こどもの道徳性の発達」について環境要因と認知発達との関連性を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第9回	「児童期の思考と記憶の発達」を理解すると同時に論理的操作と記憶方略の発達を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第10回	「こどもの性役割」について社会的学習、認知発達、精神分析の理論を基に考察す	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第11回	「生涯発達」について人間が抱える問題の心理的・社会的背景を理解して考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第12回	「こどもの発達と教育」について関連分野の学説の研究を分析して考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第13回	「こどもの発達と家族関係」について親子関係に着目して発達に及ぼす影響を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第14回	「パーソナリティの発達」についてパーソナリティに関する理論と知見を学び考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第15回	「こどもとメディア」に着目して、こどもの社会認知と発達に及ぼす影響を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に関するレスポンスシートや課題の内容(50%)、授業での対話・討論への参加状況(50%)によって評価する。	

その他	0	なし
教科書		
「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房、「よくわかる教育心理学」ミネルヴァ書房、「ベーシック発達心理学」東京大学出版会		
参考文献		
各回資料を配布する。		
履修条件・留意事項等		
各自の研究を構築していくために発達心理学および教育心理学を学ぶ位置づけの授業である。留意点として現場の経験を通してこどもの発達に関する討論等への積極的な参加が求められる。		
備考欄		
2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、『大学が独自に設定する科目』の『教育の基礎的理解に関する科目』区分における選択必修科目である。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		気になる子どもの発達支援特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	木谷 岐子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「家庭や地域社会の変化に伴うこども発達の実態やニーズの多様化に対応して、適切な支援、指導、教育の実践を展開できる。(知識・技能)」、「教育、保育において、多様なニーズを有するこどものインクルーシブな教育・支援を展開できる。(知識・技能)」「こどもの成長・発達にむけた的確な教育・支援を実現するための教育研究を推進することができる(思考・判断・表現)」と関係する科目である。							
授業の概要							
実践的教育・研究の指導を通じて、今日の教育・保育の現場において求められる多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成する。そのために、大学院生自身の経験を通した課題を提示し、活発な討議を通して授業を展開する。							
到達目標							
1. こどもの多様なニーズを理解し、説明することができる。 2. 学んだ内容と、大学院生自身の経験を関連づけることができる。 3. いかにインクルーシブな教育・保育への取り組みを進めていくかについて、具体的に思考し、論ずることができる。							
授業の方法							
授業は演習方式で実施し、受講者全員で授業を作り上げる参加型の方式を採用する。そこでは、各自のこれまでの経験を全体で共有できるような場を設定する。							
ICT活用							
パソコンを用いて、発表や討論の資料を作成する。Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

臨床心理士/公認心理師として、発達相談やスクールカウンセラー業務に従事した実務経験を活かし、多様なニーズを持つこどもの発達支援についての演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業におけるディスカッション、及びレポートへのコメントによってフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・オリエンテーション 多様なニーズを有する幼児・児童に関する社会的動向の概要を理解する。また、これでまでの自身の経験を振り返る。	多様なニーズを有するこどもについて思い浮かぶ事柄を書き出す。(90分)	授業のなかで共同で出し合った、多様なニーズを有するこどもについて、各自整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	・多様なニーズを有する幼児について① 多様なニーズを有する幼児の発達支援に関する動向を理解する。	事前に配布した資料に目を通しておく。(90分)	多様なニーズを有する幼児への支援の動向について、各自整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	・多様なニーズを有する幼児について② 多様なニーズを有する幼児の発達支援の様子を映像資料等を通して把握し、理解を深める。	多様なニーズを有する幼児に対する疑問点や関心がある事柄について書き出しておく。(90分)	映像資料から得た学びをまとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第4回	・多様なニーズを有する児童について① 多様なニーズを有する児童の発達支援に関する動向を理解する。	多様なニーズを有する児童について各自の経験をまとめておく。(90分)	配布されたレジュメを読み返して、各自整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第5回	・多様なニーズを有する児童について② 多様なニーズを有する児童の発達支援の様子を映像資料等を通して把握し、理解を深める。	多様なニーズを有する児童に対する疑問点や関心がある事柄について書き出しておく。(90分)	映像資料から得た学びをまとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	・多様なニーズを有する幼児・児童に関する研究動向① 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援についてまとめられた文献を紹介する。文献の内容を基に、各自のこれまでの経験と照らし合わせながらディスカッションする。	事前に演習に必要な資料を配布するので、目を通しておく。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第7回	・多様なニーズを有する幼児・児童に関する研究動向② 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に関し、各自、関心を絞って、論文を収集し、レジュメを作成する。	各自テーマについての関心事を整理しておく。(90分)	収集した資料を読み、要点を絞ったレジュメを完成させる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	・多様なニーズを有する幼児・児童に関する研究動向③ 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に関し、各自、関心を絞って、論文を収集し、レジュメを作成する。	各自作成したレジュメを点検する(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	・エピソード記述法から実践を捉える① エピソード記述法を理解し、多様なニーズを有する幼児・児童との生きた関わりを捉える方法論を理解する。	エピソード記述法について調べておく。(90分)	授業で配布されたレジュメを元に振り返りを行う。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第10回	・エピソード記述法から実践を捉える② エピソード記述法によって書かれた文献を通し、方法論の理解を深める。	各自の日常の中でのエピソードを収集する。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第11回	・エピソード記述法から実践を捉える③ エピソード記述法を用いて、自身と他者の生きた関わりの記述を書き起こす演習を行う。	各自の日常の中でのエピソードを収集する。(90分)	授業の振り返りをし、必要な事項について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	・エピソード記述法から実践を捉える④ 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援の実践場面について、各自エピソード記述法を用いて記述する。	各自の実践場面からエピソードを収集する。(90分)	授業の振り返りをし、必要な事項について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第13回	・エピソード記述法から実践を捉える⑤ 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援の実践場面について、各自エピソード記述法を用いて記述したものに考察を加え、他者も理解できる形に洗練させる。	各自の実践場面から切り取ったエピソードについて考察を深める。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	・エピソード記述から実践を捉える⑥ 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援の実践場面について、エピソード記述を用いて記述した各自の実践を紹介し合う。	考察を加えたエピソード記述を点検する。(90分)	授業の振り返りをし、必要な事項について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	・まとめ 15回の授業を通して得られた気づきや、考えについてレポートにまとめ、それを元にディスカッションする。	全15回の授業についての振り返りを行う。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	演習での発表及び討論への参加の積極性によって評価する(50%)。分析資料の作成(レポート)の取組(50%)	

その他	0	なし。
教科書		
演習に必要な資料はその都度配付する。		
参考文献		
インクルーシブ教育ってどんな教育？ 青山新吾編 学事出版 エピソード記述入門－実践と質的研究のために 鯨岡峻 東京大学出版会		
履修条件・留意事項等		
各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		教育課程・方法特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	加藤 裕明						
授業の位置づけ							
①「教育課程・方法特別演習」(以下、本授業)は、社会情動的スキルを重視する幼児期の遊びと、学童期の学びの接続に関し、探究する力を身につける科目である。 ②同時に、各自の研究テーマにふさわしい研究の方法に関する知見を深める科目でもある。 ③本授業は、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群、特に「教育課程・方法特論」、「教育内容・教材特論」、「教育内容・教材特別演習」、「教育方法実践特論」、「教育方法実践特別演習」等に接続する科目である。							
授業の概要							
幼児教育と学校教育を接続する「育ち」と「学び」に関し、受講者自ら探求する力を獲得するための理論の実践に関する知見を獲得し、探求を深める。特に後半では、受講者が修士論文を書くことをふまえ、教育学研究の方法論に関し質的研究、量的研究の双方の知見を深めるためゲストティーチャーも招きながら、研究方法についての知見を深める。							
到達目標							
①本授業を通し、受講者は、現代の学校教育の諸問題に関する本質的な点を説明できるようになる。 ②また、現代の学校教育の改革の方向について、探究することができるようなる。 ③さらに、自分自身の研究テーマをより明確なものにし、そのための研究方法に関する知見を身に付ける。							
授業の方法							
①この授業では、ゲストスピーカーも交え、パワーポイントや印刷配布物などによって解説する。 ②少人数のゼミ形式により、資料を活用した対話活動によってすすめていく。 ③ 社会人を含めた大学院生自身の経験をもとに、レポートを発表してもらい、それにもとづき、活発な対話・討議を軸にすアクティブ・ラーニングをすすめる。							
ICT活用							
・e-ラーニングののプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。また、受講者のレポートをプラットフォーム上で共有し、対話を促進させ、アクティブ・ラーニングをすすめる。							
実務経験のある教員の教育内容							

・加藤は、公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践経験を有する。その経験をふまえ、教師の学びと育ちに関し考察を深めてきた。さらに、この間、演劇教育を専門的に研究し、博士学位を取得した。以上の経験を活かし、子どもたちの信頼関係づくり、協働的、活動的な学びと表現創造、そして「社会情動的スキル」(非認知スキル)の育み方等について、具体的な子どもの姿を通して、授業の中に織り込んでいく。

課題に対するフィードバックの方法

・本授業は、受講生によるレポート報告を軸に、対話活動を軸に展開し、その内容にしたがって論を組み立て、次回以降の授業を展開していく。つまり、授業のあり方全体が、常に受講生へのフィードバックによってデザインされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・幼児教育と学校教育を接続させるための理論的検討を行う。	・シラバスを読んでおくとともに、自分の研究テーマについて概要を説明できるようにしておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第2回	・デューイの実験学校(デューイ・スクール)における理論と実践を参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第3回	・デューイとフレーベルの理論的な接点について参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第4回	・デューイの展開した「新教育」の理論と実践を参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			

第5回	・子どもの「衝動」と、学校教育の接続の在り方を参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第6回	・学校と地域の接続のあり方を参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第7回	・デューイ実験学校の実践の記述と研究の方法に関する課題について検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第8回	・教育実践を記述する研究の方法としての質的研究法を検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第9回	・調査・研究のために(1)心理測定法について学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第10回	・調査・研究のために(2)統計学の基礎について学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			

第11回	・調査・研究のために(3)アンケート作成法について学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第12回	・調査・研究のために(5)データ解析の基礎を学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第13回	・調査・研究のために(5)演習1 サンプルデータを基にデータの扱い方を学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第14回	・調査・研究のために(6)演習2 統計学的なデータ解釈の方法を学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第15回	・本演習全体をふりかえり参加者間で対話する。	・これまでの授業をふりかえり、自分の研究テーマに引き付け考えたことをまとめておく。(25分)	・授業をふまえ、自分の研究テーマをさらに具体的に設定し直す。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で活用するレポート内容(40%)、レポートの口頭発表(20%)、授業における対話、討議への活発な参加(40%)	

その他	0	
教科書		
授業内で、適宜必要なテキストや資料を印刷配布します。		
参考文献		
・J.デューイ(上野正道訳者代表2019)『学校と社会』,ほか』東京大学出版会. ・加藤裕明(2016)「演劇教育における協働的創造性育成過程における質的研究」(北海道大学図書館HUSCUP) ・佐藤学(2015)『専門家として教師を育てる 教師教育改革のグランドデザイン』岩波書店. ・新幼稚園教育要領、新学習指導要領. ・鯨岡峻・鯨岡和子(2007)『保育のためのエピソード記述入門』ミネルヴァ書房. ・同(2009)『エピソード記述で保育を描く』ミネルヴァ書房. ・鯨岡峻(2013)『子どもの心の育ちをエピソードで描く』ミネルヴァ書房.		
履修条件・留意事項等		
・各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたいと思います。		
備考欄		
・2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目です。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		教育内容・教材特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
遊びを中心とする幼児期の学びと教科学習に重きを置く学童期の学びに一貫性を確保し、幼小の連続性と連携を構築することは、今日の重要な教育課題となっている。この課題に応えるために、本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別演習、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。							
授業の概要							
教育内容・教材特論において得た知見を土台として、本演習では、より具体的、実践的な研究を展開する。教育内容・教材の開発においては、今日、教育内容をいかに具体化するかの道筋と特定の素材がいかなる教育内容にふさわしいかを見出す道筋、あるいはそれらを総合した道筋などの多様な方法が提案されているが、これらの先行研究と事例に学び、受講者にはいくつかの課題について、具体的教材の作成を課す。受講生自身の経験を通じた課題意識を最大限に生かし、課題についての遂行過程及び成果をもとに、教育内容・教材研究に関する意欲を喚起し、力量を養うものとする。							
到達目標							
1.教育内容教材論の理論的な理解を応用し、教材の吟味・批判ができる力量を形成する。2.すでにある教材について改良を加え、新たな教材を開発する意欲・力量を形成する。3.幼小を貫くカリキュラムの構築に向けて、受講生自身の経験を通じた課題意識を生かした見通しのもてる力量を形成する。							
授業の方法							
配布印刷物(課題など)を用いて演習形式ですすめる。 今回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
特になし。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

今回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	本演習が、教育内容・教材特論での研究成果をもとに、これを具体的な教材作成に結実させるための力量を養う目的を持つことを説明する。	シラバスを十分に確認しておくこと。(25分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	教材作成には、多様なアプローチがあり得ること、また必要であることを、特論の成果をまとめる形で捉え(例えば、内容から教材へ(基数の本質→タイル)、教材から内容へ(すぐれた絵本→多様な人間像の提示)、以後の作業の指針として活用する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第3回	教材から内容への一つの試みとして、モンテッソーリ教具をとりあげる。この教材が、いかなる思考操作を求めているかを受講生相互の討論を通して検討し、改良を加えることによって、どのような教育内容に資するかを探求する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第4回	絵本を、そこに描かれる人間関係(つむがれる関係、こわれる関係)、人間像の(強さの中の弱さ、弱さの中の強さ)、境遇、運命等多様な観点(観点の発見を含めて)から分類・整理し、一まとまりの教材群(教育内容)を作成する課題を探す。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			

第5回	作成したリストに基づき、受講生間において、交流・討論をし、絵本の教材性と取り扱いについて探求する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第6回	ことばに関するしりとり・回文などの「遊び」について、日本語の拍、音節、アクセント等に関する基本的な理解をベースにして、ルール作りなどの改善・開発をもとに文字学習の基礎となるような教材・遊びづくりに取り組む。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第7回	入門期の文字指導について、教科書やさまざまなテキストについて、吟味検討し、適切なあり方について研究する。幼小のカリキュラムについても望ましいあり方を構想する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第8回	第6講と第7講の課題について、レポートを交流し、幼小のカリキュラムの連続性について、一定の知見を得るよう探求する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第9回	量について、保存概念の獲得の状況などを考慮しながら、長いー短い、速いー遅いなどの言葉と体感を結びつける教材の考案を課す。この際モンテッソーリ教具の量概念形成への改善を試みる。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第10回	研究の成果を交流し、未測の量の段階での指導方法と意義について、受講生間で討論をし、研究を深める。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			

第11回	入門期の数の指導について、教科書教材を批判的に検討する。あわせて、この期の数指導についての種々のプランや提言について比較検討し、その妥当性を明らかにする。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第12回	加法は、具体物の提示ないし図示は、併置により可能であるが、減法は求残の提示、図示が極めて難しい。これを、本演習の最後の課題として課す。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第13回	課題について、創案した教材を交流し、それによる指導の可能性、方法等について研究する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第14回	幼児教育における動画使用の可能性と意義について、各領域との関連を考慮しながら、受講生間で討論をし、考察する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第15回	まとめとして、本演習で得たものについて、レポートを作成し、討論する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	すべての返却された課題や資料などに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題レポート(70%)及び討論内容(30%)	

その他	0	なし。
教科書		
講義資料はその都度、レジメを事前に配布する。		
参考文献		
①新・基本保育シリーズ第13巻「教育・保育カリキュラム論」第2講 日本におけるカリキュラムの基礎論 ②幼稚園カリキュラムの振子性格―新幼稚園要領の分析を中心に―、子どもロジ第14巻 ③幼保小連携論 日本保育学会第66回大会発表要旨集 等 この他、適宜案内する		
履修条件・留意事項等		
教育内容・教材特論も履修すること。		
備考欄		
2022(令和4年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」、「小学校教諭専修免許状」に関する教職課程の科目でもあり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目である。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		教育方法実践特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	小田 進一、渡邊 堯宏						
授業の位置づけ							
本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別研究、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。							
授業の概要							
幼児教育実践についての教育実践方法論の成果をもとに、本演習では、より具体的に実践現場における課題を抽出し、その性格・特徴を明らかにするとともに、解決に向けていかなる方策があり得るかを研究する。教育実践は、実践を展開するうえでの諸環境の調整、組織者のリーダーシップの発揮、実践者相互の関係性の構築、保護者・地域社会との連携等を研究と事例を検討し、諸課題の解決もこうした実践の全体像に位置づけられて可能となることを明らかにする。ここでは、受講生が演習へ積極的に参加できる環境を提供し、大学院生が受講生相互の経験を通じた経験知を提示しあうことを含めて、重層化した理解を深める演習を展開する。							
到達目標							
1 共同で研究課題に取り組み、幼児教育実践について、的確に批判、分析し、その特徴をつかみとることができる。 2 幼児教育実践の全体像を理解し、個々の実践の意義を評価できる。 3 幼児教育実践に、強い確信と意欲をもって望むことができる。 4 お互いに「受講生自身の経験を通じた課題」をベースにした情報交換をしながら、研究課題を深めていく方法について習得する。							
授業の方法							
実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開する。							
ICT活用							
ICT活用 ICT活用する調査方法についても検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

保育園約25年、幼稚園18年と乳幼児期の保育に携わってきた。保育実践のみならず運営や経営についての役割も担ってきた。実習生の受け入れプログラム作り作りや、障碍児の受け入れと充実、保育現場における研修体制づくり、保育内容の充実に向けての見直し、保育者の実践研究等の課題に取り組んできた。これらの実務から得た内容と研究活動を基にして、個々の学生の研究に向かう姿勢を支える。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図る。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	本講義が教育方法実践特論を土台とした、より実践的な教育実践へのアプローチであること、教育実践の特徴を見出す観察力を養い、それぞれの実践の力量の向上につなげようとするものであることを理解する。 次回にむけ、これまでの知見をもとに幼稚園・保育所への調査票の作成に着手することを確認し、手順及び分担等を受講生同士で話し合い、最も効果的に取り組みやすい研究体制を提案する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第2回	教育実践の特徴を把握するための調査票を作成する。各受講生があらかじめ準備した調査内容をつき合わせ、討論を通して、最も、回答者に負担がかからず、かつ、資料的価値の高い情報を収集できるように工夫する。1	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第3回	教育実践の特徴を把握するための調査票を作成する。各受講生があらかじめ準備した調査内容をつき合わせ、討論を通して、最も、回答者に負担がかからず、かつ、資料的価値の高い情報を収集できるように工夫する。2	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第4回	回調査票の成案を作成し、各自、分担し合いながら、各幼稚園・保育所に発送する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		

第5回	回収を待つ間、日本において定評のある実践及び外国で注目されている実践(例えば、プロジェクトアプローチ)などの先行事例を研究し、視野を豊かにする。回収したアンケートの集計を行う。いかに分析するかを担当者からの課題に基づいて、基礎票の読み取りに着手する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第6回	ア回収したアンケートの集計を行う。いかに分析するかを担当者からの課題に基づいて、基礎票の読み取りに着手する。アンケートの集計に分析を加え、討論し、レポートにまとめる。この作業を通じて、観察対象園・所を定める。(アンケートでは、あらかじめ承諾を問うておく。)	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第7回	特徴ある活動場面(遊び、作業行事等)の視聴と担当者(本演習に参加)へのインタビュー及び討論(A園)を行う。(インタビューの進め方に当たっては、あらかじめ、受講生の話し合いを通した枠組みに基づいて、半構造化された面接シートを用いて行う。なお、ビデオ収録は教員が行う)。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第8回	特徴ある活動場面(遊び、作業行事等)のビデオ収録・視聴と担当者(本演習に参加)へのインタビュー及び討論(B園)	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第9回	特徴ある活動場面(遊び、作業行事等)のビデオ収録・視聴と担当者(本演習に参加)へのインタビュー及び討論(C園)	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第10回	3園のそれぞれの実践から、何を学び得るかの討論をおよび観察レポートの作成を通して、それぞれの園の子どもの発達支援の特徴を浮き彫りにする。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		

第11回	A園責任者へのインタビュー(本演習に参加)、教育課程作成のプロセス、打ち出している園の特徴、教育実践の特徴、家庭・地域社会との連携、インクルーシブな視点の有無、リーダーシップ・同僚性への腐心等について、アンケートの内容をより具体的に調査する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第12回	B園の責任者へのインタビューにおいても、同様の取り組みを進める。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第13回	C園の責任者へのインタビューにおいても、同様の取り組みを進める。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第14回	A、B、C園のインタビューから何を学び得るか討論及びレポートの作成を通して明らかにする。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第15回	本演習で研究した成果の発表と講評(講義担当者及びその他の指導教員も参加し、討論に参加する)。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	調査票の作成及び半構造化面接による資料の収集の内容により評価する。	

その他	0	
教科書		
特に定めない		
参考文献		
都度指定する。		
履修条件・留意事項等		
共同での教育・研究活動が中心になるので受講生同士で十分連絡を取りながら、本演習活動に参加すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		発達障害実践特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分		単位	2
担当教員	白幡 知尋、未定						
授業の位置づけ							
インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきた。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置している。具体的には、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援 教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の7科目が設定されている。							
授業の概要							
発達障害に含まれる主な障害として、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、高機能自閉症、アスペルガー障害があげられる。ここでは、「障害という問題を構成している諸要因の関連」の枠組みから、発達障害を抱える人々の課題と解決の糸口を捉えていく。さらに、この演習では、認知神経科学的研究、特に、脳血流分野の研究について、機器操作の実習を通して学習し、討論を通して、発達障害研究の一つの切り口としての理解を深める。							
到達目標							
次の3点を授業の到達目標にする。 (1) 学習障害、注意欠陥多動性障害(ADHD)、高機能自閉症、アスペルガー障害 等の発達障害の課題を抱える 人たちの行動特性を理解できる。 (2) 発達障害の課題を抱える子ども達の行動特性が社会的場のなかで、どのような形で、他者とのかかわりのひずみを生じさせているかを関係論的観点から捉え、支援の手がかりを発見すること。 (3) 脳血流の測定機器の活用の仕方を学習し、発達障害の課題を抱える児童・生徒に関する研究について理解を深める。							
授業の方法							
実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

提出された授業の振り返りのレポート及びクリッカーによる分析結果にコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	発達と発達障害について学習する。ここでは、発達論的、関係論的観点から発達と発達障害の概念を明らかにする中で、発達障害ということばの持つ意味について学習をし、発達障害についての基礎的理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第2回	小学校・中学校・高等学校の通常の学級に在籍する発達障害の抱える問題と、一人一人の発達に応じた個別指導、授業における教材教具の工夫などの実態把握をし、一人一人の教育的ニーズにきめ細かく応えていく、効果的な発達支援手法についての情報を持ち寄り、受講生全員で情報を交換し合いながら、発達障害の課題を抱える子ども達の今日的課題を明らかにする。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第3回	発達障害とはどのような障害なのかについてその輪郭を捉える。 ここでは、配布された参考資料を活用して受講生全員で討論をし、お互いの情報を提供しあいながら、学習障害(LD)、注意欠陥/多動性障害(ADHD)、高機能自閉症等、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要としている児童生徒についての理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第4回	学習障害(LD)とはどのような障害なのかを学習する。学習障害の子ども達は、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、または推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な課題に直面していることを理解する。受講生が相互に教育情報を出し合いながら、受講生間の情報を積極的に吸収しあい、支援の在り方についての手がかりを探る。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			

第5回	「へき地保育所におけるインクルーシブな保育環境に関する研究. 北海道文教大学研究紀要 第40号」の論文を読み、「保育場面で気になる子ども」を取り巻く保育環境を明らかにし、受講生相互の討論を通して、保育場面で気になる子どもの行動特徴を明らかにし、インクルーシブな保育環境を構築するための手がかりを明らかにする。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第6回	「障害または障害の疑いを持つ幼児の父母の育児感情. コミュニケーション障害研究, 第8号」の論文を読み、討論を通して、就学前の親の育児効力感と育児関連ストレスについての関係並びに父親と母親とで感じ方の差、夫婦間での関係について学習を深める。このことを通して、発達面に課題をもつ子どもに対する養育の場について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第7回	「空間把握における学習障害児の上肢運動の適応能力に関する基礎研究. 電子情報通信学会『信学技法』, 第23号」を読み、受講生全員による討論を通しながら、認知神経科学的側面から学習障害児の特性について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第8回	「空間的に視覚と固有受容感覚を矛盾させた状態での到達運動における前頭前野の活動について—近赤外線スペクトロスコープによる検討—. 日本脈管学, 第48号, 第4巻」の論文をベースにして、実際に、認知神経科学的側面から情報を収集する実験的方法について学習し、討論を通して、発達障害児の抱える特性についての理解を深める。ここでは、実際に、測定機器の仕方の学習も行う。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第9回	指定文献「実践への保育学. 同文書院」のなかから、受講生のそれぞれが特に、発達障害児に対する教育実践において役立つと思われる「興味深い教育情報」を抽出し、それらを討論素材として提示し、討論を通して、保育現場における発達障害児への支援についての理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第10回	3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする「自閉症」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行う手がかりとはなにか」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			

第11回	基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を示す「学習障害(LD)」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援」とは何かについて理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第12回	年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業に支障をきたす「注意欠陥多動性障害(ADHD)」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行うための手がかり」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第13回	3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わない「高機能自閉症」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行うための手がかり」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第14回	知的発達の遅れを伴わず、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わない「アスペルガー症候群」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行うための手がかり」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第15回	演習全体を振り返り、この演習を通して学習したことについて受講生それぞれが、自分の意見または感想を述べ合い、それらを素材にして、学習の成果についてレポートを作成する。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	この演習での積極的な参加の状況、及びレポートにより総合的に評価する。	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
授業と並行させて認知神経科学的側面から情報収集する実験的方法の実際について、体験を通して学習する。		
備考欄		